

Century Tube Channel Strip

もっとも重要なソースのインスピレーションをリアルタイムレコーディング

“その瞬間のプレー”を捉えることは重要です。そして、そのサウンドで得られたインスピレーションも合わせて捉えることも同様に重要です。新製品のCentury Tube Channel Stripプラグインでは、レコード制作が、瞬間的で、そして大胆なクリエイティビティの産物であった時代のフィーリングを得ることができます。オーガニックなチューブマイクプリアンプ、クリアなダイナミクスコントロール、直感的なボイスिंगが可能なEQを備えたCentury Tube Preampプラグインは、すべてのUAインターフェイスユーザーに最適です。そして、レコーディングしながらもクリエイティブなイメージーションのまま素晴らしい結果を得ることができます。

主な機能:

- ボーカル、ギター、シンセなどのトラッキング用に設計された最高のツールを使用して、レコーディングワークフローのシンプルにし、さらに強化
- クリエイティブなゾーンから外れることなく、幅広いストローク、そして害のないビンテージスタイルのチューブチャンネルストリップ
- ビンテージスタイルのチューブマイクプリアンプ、シンプルな3バンドEQ、オプティカルコンプレッサーをボーカル、ギター、ベース、ドラムなどに使用し、パフォーマンスを簡単に処理することができます。
- Unison™テクノロジーを使用してCentury Tube Channel Stripプラグインから直接UAオーディオインターフェイスのマイクプリアンプのゲインステージとインピーダンスをコントロール

パーフェクトなマイクプリ

Century Tube Channel Stripのマイクプラグインは、すべてのソース、特にボーカルにチューブマイクのカラーを提供することができます。魅力的なサウンドから素直なサウンドまで多くのジャンルに適したサウンドが得られます。ロー/ハイゲインスイッチを使用してCenturyのチューブプリアンプをマイクに合わせることができ、ロー設定では、モダンなコンデンサーマイクに、ハイ設定ではダイナミック、またはリボンマイクに適したサウンドが得られます。

UAオーディオインターフェイスだけで使用できるUnisonテクノロジー

UAの画期的なUnisonテクノロジーを活用したCentury Tube Channel Stripは、アナログとデジタルの間の境界線をぼかすことで重要なインピーダンス、ゲインステージの“スイートスポット”、ビンテージ・チューブアンプのサーキットの挙動などを忠実に再現します。

この秘密は、デジタルコントロールされたUAオーディオインターフェイスのマイクプリアンプとCentury Tube Channel StripプラグインのUnisonによる双方向コントロールと通信です。

簡単なEQ シーズニング

Century Tube Channel Stripは、直感的で音楽的な3バンドEQを採用しているため、ボーカルのディティールを引き出すためにブーストしたり、オーバードライブサウンドのエレキギターにパンチを与えたり、アコースティックギターに魅力に演出することが簡単に可能です。

最適なOptoコンプレッション

クラシックなオートフォーマードライブのオプティカルコンプレッサーを搭載したCentury Tube Channel Stripのダイナミクスセクションは、1つのノブでコンプレッション設定を行います。ダイナミックなボーカルやベースのパフォーマンスを素早く落ち着かせ、その位置に固定し、アコースティックギターやピアノにエネルギーやハーモニクスを加えることができます。Centuryのコンプレッサーは、効果的なコンプレッションを行うことも可能です。キーボードやシンセのサウンドの粒立ちを粗くしたりキャラクターを与えることができます。

すべてのソースに高級感のあるキャラクターとカラーを加える

もちろんCentury Tube Channel Stripプラグインは、UAオーディオインターフェイスのオーナーだけのものではありません。UAD-2ハードウェアのオーナーは、DAW上でのミックスやトーンシェイピングにCentury Tube Channel Stripプラグインを使用することができます。



Century Tube Channel Stripのインターフェイス

Operational Overview

Century Tube Channel Stripプラグインは、ビンテージ風のサウンドが得られる使いやすいチャンネルストリップです。チューブプリアンプ、直感的に使用できるEQ、クリアなダイナミクスコントロールを使用してウォームなアナログサウンドを加えることが可能です。

モジュラー設計

Century Tube Channel Stripプラグインは、左側から右側へ直列のシグナルフローを備えたモジュラー設計を特長としています。チューブプリアンプは、最初のモジュールで、次にイコライザー、Optoレベラー、最後にマスターモジュールが続きます。イコライザーモジュールと、Optoレベラーモジュールは個別にバイパスが可能です。

アーティストプリセット

Century Tube Channel Stripには、下記の著名アーティストが作成したプリセットが含まれており、DAWアプリケーションのプリセットメニュー、UADツールバーのセッティングメニュー、またはApollo/ArrowのConsoleのプリセットマネージャーからアクセス可能です。

JJ Blair	Michael Romanowski
John Paterno	Ian Boxill
Gary Noble	Richard Chycki

Century Tube Channel Stripにプリセットを提供しているアーティスト

Unisonによるインタラクション



Century Tube Channel Stripには、Universal AudioのApolloとArrowオーディオインターフェイスのマイクプリアンプハードウェアとの統合するためのUnisonテクノロジーに対応しています。Unisonインターフェイスでは、透明なサウンドが得られるマイクプリアンプは、モデリングしたプリアンプのサウンド、インプットキャラクター、特徴を継承しています。

注: Unisonは、プラグインがApollo/ArrowのConsoleアプリケーション内の専用Unisonインサートで使用されている場合にのみ有効になります。詳細については、Apolloソフトウェアマニュアル、またはArrowマニュアル内のUnisonの章を参照してください。

Unisonを使用すると、ハードウェアプリアンプに、モデリングされたプリアンプの物理的入力インピーダンスを適用します。UAのクリアなアナログアンプと組み合わせることでプラグインの完全なゲインとトーンレンジをクリーンなサウンドからクリッピングまで幅広い音楽に合うスイートスポットを提供します。

リアルなタンデムコントロール

Unisonは、UAオーディオインターフェイス上のデジタルコントロールパネル・ハードウェアとUADプラグインの画面上のコントロールの両方を使用してプラグインの設定をシームレスでインタラクティブにコントロールすることができます。等しいプリアンプコントロール(ゲイン、カットフィルター、ポラリティ、パッド)はすべてミラーリングされます。プリアンプ・コントロールは、ゲインレベルやクリッピングポイントなどモデリングしたプリアンプとまったく同じ相互作用を得た動作での調整を行うことができます。

ハードウェア・インプットインピーダンス

すべてのUnisonマイクプリアンプは、アナログハードウェアの可変インプットインピーダンスを特長としています。これは、物理的なマイクとプリアンプの相互作用を得るためにUnison対応のUADプラグインによって物理的に変更可能です。このインピーダンスの切り替えにより、Unisonプリアンプがエミュレートされているハードウェアのインプットインピーダンスと一致させることが可能になり、マイクのサウンドに大きな影響を与えます。A/D変換を行う前に電気的な負荷が入力に発生するため、リアリズムはオリジナルのハードウェアプリアンプに忠実です。

タクタイル・ゲインステージ

UAオーディオインターフェイスのハードウェアノブは、ゲインステージ・モード中にUnisonプラグインで使用できるゲインやレベルパラメーターを個別に調節可能です。調整されているゲインステージは、インターフェイスハードウェアを使用してリモートで切り替えることができます。Unisonプラグインのソフトウェア画面を使用せずに、正確な物理的な触覚でのコントロールによってゲインレベルに関する色をハードウェアノブから調整することができます。



Unisonゲインステージモードの時に表示される3色のゲインコントロール

Century Tube Channel Stripのコントロール

チューブプリアンプ

ゲイン

ゲインコントロールは、ローとハイのインプットゲインとチューブサチュレーション全体のキャラクターを切り替えることができます。一般的に、使用するマイクのタイプに合わせてゲインスイッチを切り替えて使用します。高出力の最新のコンデンサーマイクではローを、低出力のダイナミックやリボンマイクにはハイを使用してください。

設定を切り替えるには、コントロールをドラッグするか、テキストラベルをクリックしてください。

Unisonによるインタラクション

プラグインがプリアンプチャンネルのUnisonインサートで使用されている場合、プリアンプはそのマイクインプット・インピーダンスを600Ωに設定します。Unisonマイクのインプットインピーダンスが両方のゲインセッティングで600Ωです。

プラグインがApollo/ ArrowのConsoleアプリケーション内のプリアンプチャンネルのUnisonインサートで使用され、そのチャンネルがUnisonゲインステージ・モードである場合、UAオーディオインターフェイスのプリアンプノブを使用してこのパラメーターをハードウェアから調整することができます。

ヒント: ゲインステージに入る方法と終了する方法の詳細については、Apolloソフトウェアマニュアル、またはArrowマニュアル内のUnisonの章を参照してください。

OL LED (インプット)

ゲインコントロールの右側にあるOL(オーバーロード)LEDは、オーディオシグナルがチューブプリアンプへのインプットでクリッピングしているときに点灯します。このLEDは、クリッピングを避けるために、または意図的にクリップさせてサウンドにカラーを付ける場合のガイドとして使用可能です。

ヒント: 大きいシグナルを持つマイクソースがあり、チューブプリアンプのインプットで臨まない歪み(クリップ)が発生した場合は、ゲインをローに設定するかパッドをオンにしてください。

インプットセレクト

インプットセレクトは、プラグインの入力をライン入力とマイク入力で切り替えます。設定を切り替えるには、コントロール、またはテキストラベルをクリックしてください。

重要: ハードウェアのプリアンプと同じように、インプットをマイクからラインに切り替える場合は、シグナルのアウトプットレベルが大幅に変化する可能性があるため、注意してください。

Unisonによるインタラクション

Apollo/ ArrowのConsoleアプリケーション内にあるUnisonインサートでプラグインを使用すると、インプットセレクトのソフトウェアとハードウェアで行うコントロールが反映されます。インプットセレクトは、プラグインの画面、Consoleのマイク/ラインスイッチ、またはUAオーディオインターフェイスのハードウェアボタンで変更可能です。Apollo/ ArrowのHi-Zインプットに接続があると、マイクモードが自動的に選択され、ライン/マイクスイッチは無効になります。

ハイパス

ハイパスフィルター・スイッチは、カットオフフリークエンシー80Hzで、オクターブ/18dBのハイパスフィルターをコントロールすることができます。

設定を切り替えるには、コントロール、またはテキストラベルをクリックしてください。

Unisonによるインタラクション

Apollo/ArrowのConsoleアプリケーション内にあるUnisonインサートでプラグインを使用すると、ハイパスフィルターのソフトウェアとハードウェアで行うコントロールが反映されます。フィルターは、プラグインの画面、ハードウェアのHPFボタンでオン/オフを切り替えることができます。

ポラリティ(極性)(Ø)

ポラリティは、入力信号の位相を180°反転させます。1つのソースを複数のマイクでレコーディングする場合、極性を反転させ、位相キャンセルを減少させることができます。

設定を切り替えるには、コントロール、またはテキストラベルをクリックしてください。

Unisonによるインタラクション

Apollo/ArrowのConsoleアプリケーション内のUnisonインサートでプラグインを使用すると、ソフトウェアとハードウェアで行うフェイズ設定のコントロールは互いに反映されます。フェイズは、プラグインのインターフェイス、Consoleのポラリティボタン、UAオーディオインターフェイスのハードウェアポラリティボタンでも反転させることが可能です。

パッド

入力パッドをオンにし、マイク入力信号を-20 dB減衰させることができます。パッドはライン、Hi-Z入力では使用できません。

設定を切り替えるには、コントロール、またはテキストラベルをクリックしてください。

Unisonによるインタラクション

Apollo/ArrowのConsoleアプリケーション内のUnisonインサートでプラグインを使用するとパッドのソフトウェアとハードウェアでのコントロールが互いに反映されます。パッドはプラグインインターフェイスの-20ボタン、Consoleのパッドボタン、またはApolloのハードウェアパッドボタンで切り替えることが可能です。

レベル

レベルコントロールを調整して、チューブプリアンプの出力ステージのゲインをコントロールします。より高いレベルでは多くカラーリング(チューブによる歪み)をもたらし、低いレベルではよりクリアなサウンドが得られます。

U Unisonによるインタラクション

Apollo/ArrowのConsoleアプリケーション内のプリアンプチャンネルのUnisonインサートで使用し、チャンネルがUnisonゲインステージ・モードになっている場合、UAオーディオインターフェイスのレベルノブを使用してこのパラメーターを調整可能です。この状態にあるとき、このパラメーターを囲むオレンジ色の輪があり、ハードウェアでコントロール可能であることを示します。

ヒント: ゲインステージに入る方法と終了する方法の詳細については、Apolloソフトウェアマニュアル、またはArrowマニュアル内のUnisonの章を参照してください。

OL LED (アウトプット)

レベルコントロールの右側にあるOL(オーバーロード)LEDは、オーディオ信号がアウトプット時にクリップしている場合に点灯します。このLEDは、クリップを避けるために、または意図的にクリップさせ、カラーが加えられているかどうかのガイドとして使用することができます。

イコライザー

ハイ

ハイEQは、10 kHz固定のハイシェルフフィルターです。フィルターのゲインを-12.0 ~ +12.0 dBの間でブースト/カットすることができます。コントロールを時計回りに回すとハイエンドを加え、反時計回りに回すとトレブルを減衰させることができます。

ヒント: コントロールをゼロに戻すには、テキストラベル“0”をクリックしてください。

FREQ

ミッドEQは、セミパラメトリック・ミッドレンジイコライゼーションを提供します。Freqコントロールを調整して中心周波数を300 Hz ~ 7.2 kHzの間で設定可能です。

このバンドのレスポンスは、ゲインセッティングに依存します。帯域幅(Q)は、より集中したピークを使用する場合には狭くして使用します。

ミッド

ミッドコントロールを調整してフィルターのゲインを-12.0 ~ +12.0 dBの間でブースト/カットすることができます。

ヒント: コントロールをゼロに戻すには、テキストラベル“0”をクリックしてください。

ロー

ローEQは、110Hz固定のローシェルフフィルターです。ローコントロールを調整してフィルターのゲインを-12.0 ~ +12.0 dBの間でブースト/カットすることができます。コントロールを時計回りに回すとローエンドを加え、反時計回りに回すとベースを減衰させることができます。

ヒント: コントロールをゼロに戻すには、テキストラベル“0”をクリックしてください。

アウト / イン

このスイッチはEQをバイパスします。アウトに設定すると、EQをバイパスします。アウトに設定され、UAD-2 DSP LoadLockが無効になっていると、UAD DSPの使用量が減少します。設定を切り替えるには、コントロール、またはそのテキストラベルをクリックしてください。

OPTOレベラー

Optoレベラーモジュールは、典型的なオートフォーマードライブ・オプティカルコンプレッサーです。ダイナミック・ゲインリダクションを行った際にゲインロスを補正するシンプルなオートゲイン機能を備えており、メイクアップゲインを使用して調整をする必要はありません。

ゲインリダクション・メーター

ゲインリダクション・メーターは、ゲインリダクションの量をdB単位で表示します。より多くゲインリダクションを行うには、コンプレッションノブを時計回りに回してください。

コンプレッション

コンプレッションコントロールは、インプットシグナルのダイナミックレンジを減少させます。ノブを時計回りに回すとより多くのコンプレッションが可能です。

アウト / イン

アウトに設定するとOptoレベラーはバイパスされます。アウトに設定し、UAD-2 DSP LoadLockが無効になっていると、UAD DSPの使用量が減少します。

マスター

マスターモジュールには、Century Tube Channel Stripプラグインのアウトプット・ゲインコントロールのメーターがあります。

VUメーター

マスターVUメーターは、アウトプットレベルをdB単位で表示します。

アウトプット

アウトプットコントロールを調整してCentury Tube Channel Stripプラグインのアウトプットシグナルを-INF (オフ) ~ +12.0 dBの間でアッテネーション、またはブースト可能です。クリーンなデジタルゲインを提供します。

Unisonによるインタラクション

Apollo/ArrowのConsoleアプリケーション内のプリアンプチャンネルのUnisonインサートで使用し、チャンネルがUnisonゲインステージ・モードになっている場合、UAオーディオインターフェイスのアウトプットノブを使用してこのパラメーターを調整可能です。この状態にあるとき、このパラメーターを囲む緑色の輪があり、ハードウェアでコントロール可能であることを示します。

ヒント: ゲインステージに入る方法と終了する方法の詳細については、Apolloソフトウェアマニュアル、またはArrowマニュアル内のUnisonの章を参照してください。

オフ/オン・スイッチ

オフ/オン・スイッチでオフにするとプラグイン全体をバイパス可能です。これは、プロセッシング前/後の信号を比較することができます。オフに設定するとプラグインはDSPを使用しません。オフに設定され、UAD-2 DSP LoadLockが無効になっていると、UAD DSPの使用量が減少します。